



3月に入り、管内の消雪は徐々に進んでおりますが、ハウス育苗では融雪剤を使用し、消雪促進に努めてください。また、昨年から導入された「はれわたり」は、浸漬時の温度管理に注意し、適正管理に努めてください。

育苗作業は1年の要となる重要な作業となるため、田植え予定日から逆算し、計画的に作業を進めましょう。

1. 作業スケジュールの目安（田植え日が5月20日の場合）

月日	3月29日頃		4月12日頃まで	4月10日頃	4月13日	4月15日	4月16日	5月20日
作業	塩水選	種子消毒	浸漬 10～14日程度	床土作り	催芽	播種	育苗管理	田植え

2. 塩水選 【充実した種籾のために！】

一年の始まりの作業です。健苗育成のため必ず実施しましょう。

塩水選 水洗い 水切り 袋詰め
(食塩水に種籾を入れ、浮き上がったものは取り除きましょう)
(塩水選後は種籾に付着した塩分はきちんと洗い流しましょう。)

区分	比重	水10 当たりの食塩量
うるち米	比重1.13	2.1 kg
もち米	比重1.08	1.2 kg

3. 種子消毒 【健康な苗つくるために！】

種子消毒剤の効果を高めるために水温は10 以下にならないようにしましょう。

方法	資材名	使用方法
粉衣法 又は 浸漬法	モミガードC 水和剤	半乾燥状態の籾1kgあたり薬剤5gを散布。1袋(100g)で種もみ20kgの消毒ができます。
浸漬法	テクリードC フロアブル	200倍液で24時間浸漬します。1袋(100g)又は1本(100cc)で薬液が20 でき、種籾10～15kgの消毒ができます。

4. 浸 漬 【発芽を揃えるために！】

浸漬中の発芽に注意しましょう！

○温度管理

- 日平均水温の積算が100 以上(水温7～10 で10～14日程度)になるまで行いましょう。
気温が高く推移すると浸漬期間が短くなるため、籾の状況を確認しながら行いましょう。
- 芽が出た籾が多くなった場合は、速やかに播種を行ってください。

○水管理

- 種子消毒の効果を高めるために、最初の2日間は水の交換を行わず、その後は3日に1回程度の間隔で行いましょう。
- 浸漬中は水温差が生じないように、籾袋の上下の入れ替えも例年以上にしっかり行いましょう。

はれわたりの特徴

浸漬時の温度管理が健苗育成のポイントです。浸漬時の水温が低ければ、出芽が揃いにくい品種であることから、浸漬時の水温は10 を保つようにしましょう！

種子消毒や浸漬時の水温が5 程度の場合、日平均水温の積算が100 を確保しても、出芽不良や出芽遅れになる可能性があります。